

NEW HOUSING JOURNAL

VOL48

11

NOVEMBER

2012

# 新住宅

# ジャーナル

サイディングPCに“第3の核”  
中古+リフォーム保険特集

## E-1 シリーズ ここがみどころ



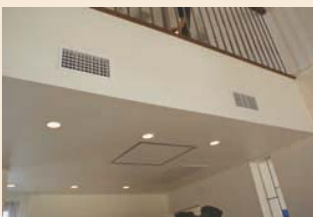
## 二重断熱システム

Q値1.0を上回る国内トップクラスの断熱性能と遮音性能。高性能ガラスウール140mm(2×6)+構造用合板9mm+アルセコ外張り断熱80mm(ロックウールラメラ)+ベースコート+ガラスメッシュ+トップコート+塗料の湿式工法で厚みは合計250mm。



## 三層フロア パーボンオーク

無垢材を三層に張り合わせることで材の狂いを解消した理想のフロア。



## デシカント空調システム

1階と2階にデシカを入れて調湿。ダクトでつなぎ天井のエアコンから給気



## D-Fenster

ドイツ規格の高性能木製サッシ。複層アルゴンガス入りでU値は1.3。外枠カバーはアルミ。写真は断面図の比較。右が樹脂サッシ。樹脂サッシとほぼ同等の価格で仕入れているので夢のオプション仕様ではなく標準的に採用されている。

サッシは2種類。一つは「Dフェenster」というオーダー品のドイツ規格(DIN)に基づいた木製窓。ガラスは遮熱複層LowEアルゴンガス入りである。水まわりは樹脂サッシ。遮熱高断熱複層LowEアルゴンガ

## 坪57万で木製サッシ&amp;二重断熱

(株)北洲ハウジング(宮城県黒川郡富谷町 村上ひろみ社長)では、2012年の春にゼロエネルギー住宅を実現できる「E1basis(イーワンベイス)」を発売。4月の発売から9月末の約6カ月で約40棟を受注。同社の年間完工棟数の約50%にあたる125棟を「E1basis」とすることを目差している。

E1basisは、2020年にゼロエネルギー住宅を標準的な住宅にするという国の目標に見合った仕様の住宅。太陽光発電の搭載は標準仕様ではなくオプション仕様にするなど、購入者の予算に合わせた選択ができるようになっていく。将来的に太陽光発電や蓄電池などを搭載することでゼロエネルギーを実現できるように、壁・屋根・天井・床で十分な断熱性・気密性能などの省エネルギー性能を確保している。

サッシは2種類。一つは「Dフェenster」というオーダー品のドイツ規格(DIN)に基づいた木製窓。ガラスは遮熱複層LowEアルゴンガス入りである。水まわりは樹脂サッシ。遮熱高断熱複層LowEアルゴンガ

E1basisの本体価格は2119万円(37坪プラン・宮城地区の場合)で坪あたり57万円。オール電化(IH、エコキュート)、長期優良住宅対応仕様、標準付帯工事(保険、検査保証、給排水工事)が含まれている。

断熱では二重断熱を標準採用し、アルセコ外張断熱というドイツのアルセコ社の断熱システムを輸入している。洋風の漆喰工法といえは手間がかかるものの、一重壁だとQ値が1.3になり、二重壁になると1.0になるので二重壁を標準採用としている。

吹き抜け構造で2台のデシカント空調システム、エアコン2台で空気を循環させているので、相対湿度と温度をバランス良く調整して一次エネルギー消費量を減らすことができる。

太陽光発電を坪数×0.125W位の容量で搭載すれば、ほぼゼロエネルギー住宅となる。今年度は同社の完工棟数の約15%ほどにあたる30〜40棟が実質的なゼロエネルギー住宅であり、半数の125棟がゼロエネルギーを実現可能な仕様となっている。

「LIXIL資料館」をオープン

大島シヨールームで、温故知新

株式会社LIXILは、江東区

大島のシヨールーム（旧トステムシヨールーム）をオフィス拠点として再構築（金属・建材カンパニーと住設・建材カンパニーの本部）。新名称を公募で募り、「LIXIL WINGビル（東京都江東区）」と

命名した。

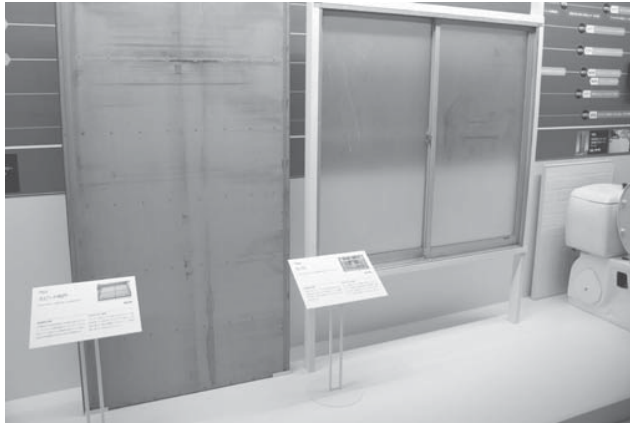
リニューアルに伴い、統合した5社の創業時からの史料などを展示した「LIXIL資料館」（間）を10月1日に開館した。フロア面積は1400㎡。常設展示のミュージアムゾーンでは、①住生活の変

遷、②ブランドヒストリーに分かれており、各社の広報担当者がインタビューや歴史資料を収集。知的財産である創業者の熱い思いと汗と涙の物語を展示した。

昭和12年（1937年）の伊那のモザイクタイル、中国大陸や南洋諸島にも普及したニギリ矢なべ（日軽アルミニウム工業）、昭和31年、日本初のプレスによる日本住宅公団向け流し台（サンウェーブ工業）。川口技研と「スピード雨戸」や日本初のホロー（中空）構造のアルミサッシ「D75」（日本建具工業株式

会社）、トヨーサッシ初のアルミサッシ「ニュー太陽」、「若葉」、日本初のアルミ玄関ドア「キング」、クイーン」など昔なつかしい建材設備の展示やパネル紹介のほか、東銀座の新歌舞伎座おける川島織物セルコンの緞子の舞台幕の制作など、草創期から現在にわたる変革の歴史を目で追うことができる。テーマは「温故知新」それぞれの企業精神や財産があつて、これからのように生まれ変わり、一つになるかが展示の中でも示されている。

事前予約制。無料。開館時間は月曜～金曜日の10時～17時。



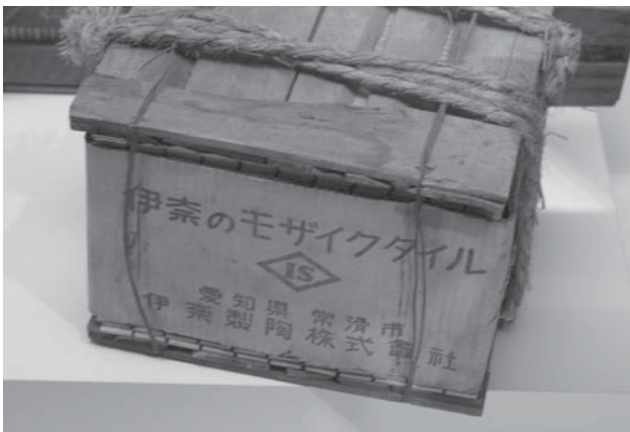
スピード雨戸（1963）と中空構造のD75（1966年）



日本初のプレスによる日本住宅公団向け流し台



建具業界紙の取材を受ける潮田健次郎氏（トステム創業者）



昭和12年（1937年）の伊那モザイクタイル